

2024年度第6回価格審査会の開催について

2024年度6回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2024年9月13日(金) 10:00~12:00
場 所	本部6F大会議室
委 員	松田 寛志 日本工営株式会社 流域水管理事業本部 本部長 栞原 圭一 東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリNZ・テクリスセンター長 星野 正 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：岩井 卓矢 監査審査室 室長：黒澤 昭浩 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2024年度第5回価格審査会議事録(案) 確認

2024年度第6回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
<p>1. 「建設物価」10月号、「Web 建設物価」10月号</p> <p>「土木コスト情報」秋号、「建築コスト情報」秋号の価格動向</p> <p>・価格が上伸した資材（工事費）</p> <p>【Web 建設物価】</p> <p>等辺山形鋼（岐阜市ほか3都市）、レディーミクストコンクリート（八戸市ほか26都市）、再生砕石類（札幌市ほか10都市）、アスファルト混合物（札幌市ほか11都市）、インターロッキングブロック（札幌市）、芝（札幌市）、合成樹脂製可とう電線管（北海道地区ほか9都市）、燃料油（札幌市ほか10都市）ほか</p> <p>【土木コスト情報】</p> <p><市場単価> 鉄筋工（新潟県ほか15都市）、ガス圧接工（新潟県ほか14都市）、インターロッキングブロック工（北海道）、法面工（全国）、吹付砕工（全国）ほか</p> <p><土木工事標準単価> 橋梁塗装工（新潟県ほか3都市）、構造物とりこわし工（新潟県ほか3都市）、コンクリートブロック積工（新潟県ほか3都市）ほか</p> <p>【建築コスト情報】</p> <p><市場単価> 鉄筋工事（水戸市ほか28都市）、圧接工事（新潟市ほか2都市）、コンクリート工事（打設手間）（仙台市ほか2都市）、型砕工事（青森市ほか29都市）ほか</p> <p><標準施工単価> 屋根及びびとい工事（全国）、金属工事（笠木）（全国）、左官工事（全国）、吹付工事（全国）、構内舗装工事（インターロッキングブロック）（札幌市）ほか</p>

- ・価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】

異形棒鋼（全国）、H形鋼（青森市ほか44都市）、等辺山形鋼（青森市ほか44都市）、鋼板（福岡市ほか6都市）、コンクリート型枠用合板（岐阜市ほか11都市）、ストレートアスファルト（全国）、構造用合板—JAS品—（盛岡市ほか13都市）、燃料油（岐阜市ほか9都市）、鉄スクラップ（全国）、非鉄スクラップ（全国）ほか

【土木コスト情報】

＜土木工事標準単価＞ 橋梁塗装工（北海道ほか29都市）、構造物とりこわし工（北海道ほか29都市）、コンクリートブロック積工（北海道ほか28都市）ほか

2. 比較資料

- ・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問1	<p>主要資材価格動向の北陸地区（七尾）のレディーミクストコンクリートにおける市況コメントで、先行きを「横ばい推移の公算大」としている。現在、同地区は災害復旧工事を中心とした需要により前年比を大きく上回る工事量が発注されているなか、需要の高まりによる先行き市況の影響はないのか。</p>	<p>北陸地区（七尾）のレディーミクストコンクリートは、メーカーが原材料価格の上昇等を背景として、2024年4月に打ち出した値上げが満額浸透した。当面は値上げ後の価格を維持する姿勢のため、先行き市況は横ばいの見込みとしている。</p>
質問2	<p>建築工事市場単価「鉄筋加工組立」で、仙台地区が東京地区よりも高い価格水準となっている理由は何か。</p>	<p>仙台地区は、東日本大震災の復興関連需要が集中した際に、鉄筋工不足が顕著となり、同地区の価格が急騰した。復興需要が落ち着いた現在も高齢化等による職人不足を背景に高値が維持されている。</p>
質問3	<p>入稿情報表において常温合材で下落している特定品目の補足コメントに「メーカーの価格改定により下落」とあるが、なぜ値上げトレンドの状況下で値下げするのか。また、公園補助資材などの補足コメントにも同様の記載があるが、背景は何か。</p>	<p>常温合材の下落している品目は、当該製品の事業譲渡により譲渡先企業が、価格の再設定を行った結果を反映したものである。今回下落した九州地区は、他地区と比較して市況が高い地区であり、今回の下落により他地区と同水準となった。また、一般的に同仕様の競合製品があった場合は、競合製品の価格を意識せざるを得ないので、メーカーが販売戦略として価格を下げることもある。</p>
質問4	<p>入稿情報表のレディーミクストコンクリートにおいて、補足コメントに「市場流通がなく、「価格掲載」→「-」とあるが、「-」はどのような状況なのか。</p>	<p>「-」は、市場性がないもの等、市場で流通が確認できない場合を示している。レディーミクストコンクリートで「-」としたのは、JIS改正によりスランプ10cmが廃止となった影響によるものである。</p>

質問 5	市場単価において「労務需給ひっ迫に伴う上伸」や「労務費上昇を背景とする上伸」との補足コメントがあった。内容は同じような印象であるが、両者の使い分けはあるのか。	「労務需給ひっ迫に伴う上伸」は、職人不足を背景に労務者確保が優先され、市場単価が値上がりしている状況で用いている。一方「労務費上昇を背景とする上伸」は、労務需給ひっ迫に関わらず、職人単価上伸に連動して市場単価が上伸する状況で用いている。
質問 6	「金属製型枠パネル（鋼製型枠パネル）」の補足コメントで、原材料高によって値上がりがあるとあるが、今回、鋼材関連は値下がりしている。鋼材が値下がりしているなかで、原材料高による値上げとなった理由は何か。	原材料の調達時期と、製品への使用時期にタイムラグが生じているためである。今回の製品価格の上伸は、春先の素材価格の値上げが、製品価格に反映されたものである。
質問 7	「公表価格」と「公表価格でないもの」の違いは何か。規格の重複はあるのか。	「公表価格」はメーカー等が発表する価格をそのまま掲載しているもの。一方、「公表価格でないもの」は、市場での取引価格を調査して掲載しているもので、「公表価格」と重複している品目はない。
質問 8	主要資材価格動向の地区情報で、帯広地区の「需要減少の危機感からメーカーは強腰で交渉を進め受け入れた」や、須崎地区の「需要家は、需要減少やコスト増に理解を示した」といった市況コメントがあったが、どういう状況なのか理解しがたい表現だった。特に需要減少に理解を示すとはどういう意味なのか。	需要減少によって、メーカー側では固定費率が上がるため、製造コストの上昇による値上げを表明し、需要家は業界の動向として需要が減少しているという共通認識をもっているため、需要減やコスト増に理解を示しているという意味で表現した。指摘のあった「需要減に理解を示した」などといった部分は、今後、市況文中に説明を具体的に書くように意識する。
質問 9	建築工事市場単価「普通合板型枠」の価格がここ1～2年は右肩上がりが続いているが、今月の市況コメントでは「先行き、横ばいの見通し」となっている。どのような状況なのか。	総合建設業者は、専門工事業者の働き方改革への対応によるコスト増と、労働者不足に一定の理解を示し、値上げ額の一部を受け入れたものの、これ以上の値上げには採算悪化の懸念から慎重な姿勢となっているため、ここ1～3カ月は横ばいの見通しとしている。
質問 10	土木工事標準単価の「ノンコーキング式コンクリートひび割れ誘発目地設置工」における補足コメントに「材料費上昇を背景とする専門工事業者の値上げが浸透し、上伸」とあるが、土木工事標準単価は、専門工事業者に歩掛を調査しているはずだが、材料費も調査しているのか。	材料費の調査は、流通業者等に加え専門工事業者に対しても、歩掛調査時に価格動向を確認している。

質問 11	建築工事市場単価「普通合板型枠」の説明コメントで、建設業者によっては前年比80～90%程度の受注量に制限しているとの話があったが、どのような状況なのか。	労務者不足を背景に、建設業者によっては、工期と労務者が確保できる工事を選別して受注する動きがあり、結果的に前年度より受注量が減少している場合がある。
質問 12	軽量コンクリートで、東京17区地区・さいたま地区の価格が「…」となっているが、ビル建築が多い都市部でも軽量コンクリートの需要が減少したために価格掲載が無くなったのか。	東京17区地区・さいたま地区においては、軽量コンクリートの原材料である人工軽量骨材を供給するプラントに障害が発生した影響から、人工軽量骨材の調達が困難となり、軽量コンクリートの供給が不安定な状況になったことから「…」としている。
質問 13	ストレートアスファルトの補足コメントに「原材料（原油）調達コストの値下がりを中心に、元売りが仕切り価格を引き下げ、下落」とある。元売り各社が仕切り価格を変更する間隔は、資材毎に違いあるのか。	ストレートアスファルトは月単位、ガソリン・軽油などは週単位で見直すなど資材毎に違いがある。
質問 14	H形鋼の市況コメントで「中小建築向けの需要が依然として精彩を欠いており、需給にタイト感が出ていない」とあり、一方、説明コメントでは「大規模な再開発向けは堅調である」とあったが、大規模向けと中小建築向けの相互に影響はないのか。	H形鋼の大規模物件向けは、メーカーと大口需要家が直接商談し取引条件を設定する「ひも付き」といわれる販売形態が多い。中小物件は、流通が鋼材を仕入れて販売する「店売り」といわれる経路が大半である。大型物件向けと中小物件向けでは、販売経路が異なるため、需給の連動性は低い傾向にある。
審議結果	「建設物価」10月号、「Web 建設物価」10月号 「土木コスト情報」秋号、「建築コスト情報」秋号の価格動向に問題はなかった。	

以上